

美術科

美術館との連携による主体的な学びを育む鑑賞授業のあり方

—幼稚園児・小学生のためのミニ美術展の企画を通して—

松本裕子

1 はじめに

中央教育審議会教育課程企画特別部会「論点整理」（平成27年8月26日付）¹⁾においては、図画工作、美術、芸術（美術、工芸）について「次期改訂に向けては、幼児期に育まれた豊かな感性と表現等の基礎の上に、小・中・高等学校教育を通じて育成すべき資質・能力を、三つの柱に沿って明確化し、各学校段階を通じて、育成すべき資質・能力の相互の関連や学習内容との関係を一層明確にした主体的で創造的な学習活動、生活や社会の中の造形や美術の働きや美術文化に関する学習活動の充実を図り、豊かな情操を養っていくことが求められる。」としている。

本学校園の図画工作・美術部会においても、育成すべき資質・能力を本学校園でねらう通教科的能力（キャリアプランニング能力、人間関係形成・社会形成能力、課題対応能力）と関連的に育む教科の本質に根ざした資質・能力とし、図1のように設定するとともに、幼稚園段階から中学3年生までの系統表²⁾を策定した。そして、実践研究を進めてきたタキノミーテーブル³⁾における「認知」「精神運動」「情意」「メタ認知」の4領域との関連性を明らかにすることで、資質・能力との関連を捉えようとした（表1）⁴⁾。これらを踏まえ、本研究は、美術館や国語科および幼稚園・小学校との連携を図り、生徒が学芸員になって、異学年を対象としたミニ美術展を企画し、招待するという目的をもった鑑賞題材を開発し、生徒が問題解決に取り組みながら、知識や内容を習得し、資質・能力を身に付けていく状況を見とろうとするものである。

2 研究の構想

(1) 研究仮説

中学校美術「B鑑賞」において、美術館と連携して、美術館や展覧会の専門的な知識を得たり、国語科と連携して、プレゼンテーションの基礎的な知識・技能を身に付けたりして、幼稚園児や小学生を対象としたミニ美術展を企画、開催する。このことにより、生徒は生活や社会の中の造形や美術の働きや美術文化への関心を高めながら、主体的で創造的な鑑賞に取り組むことができ、通教科的能力と関連する教科の本質に根ざした資質・能力を育成することができるであろう。

(2) 研究構想図

研究構想を図1のようにとらえて研究に臨んだ。

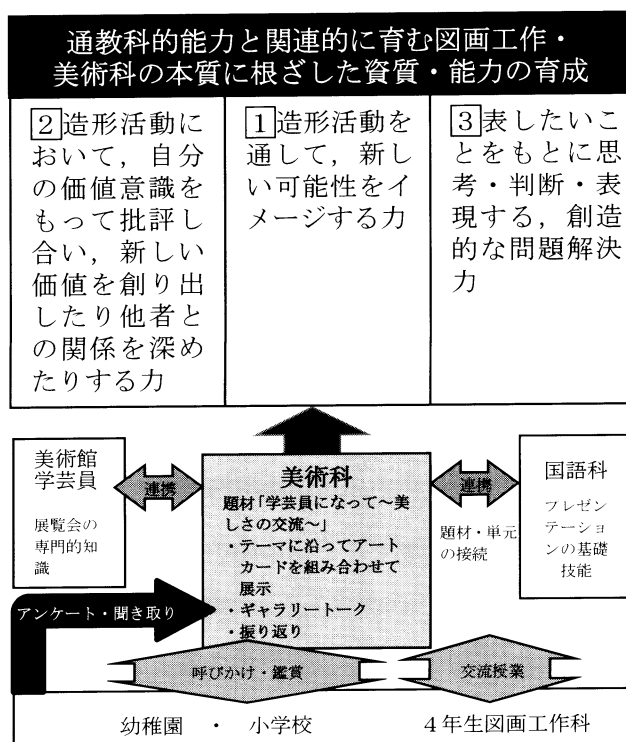


図1 研究構想図

松本：美術館との連携による主体的な学びを育む鑑賞授業のあり方
 ―幼稚園児・小学生のためのミニ美術展の企画を通して―

表1 図画工作科・美術科のタキソノミーテーブルと「通教科的能力と関連的に育む図画工作・美術科の本質に根ざした資質・能力」との関係（第7学年美術科 題材「学芸員になって～美しさの交流～」版）

	知識の次元	認知プロセス次元			通教科的能力と関連的に育む美術科の本質に迫る資質・能力		
		1 思い出す/理解する	2 応用する/分析する	3 評価する/創造する/内面化する	人間関係形成・社会形成能力	キャリアプランニング能力	課題対応能力
認知領域	事実的知識 (美術用語、造形の要素と原理)	これまでに美術館に行った経験や作品を見て感じたことを思い出し、新しい学習内容「学芸員になって」と関連付けをしようとする。	よさや美しさを感じる造形的な要素を「動き・プロポーション・構図」等の用語を用いて、分析しようとしている。	作品鑑賞や、企画展(案)の効果の相互評価の活動において、造形的な要素を用いてその良さや改善策を説明しようとする。	2 造形活動において、自分の価値意識をもって批評し合い、新しい価値を創り出したり他者との関係を深めたりする力	1 造形活動を通して、新しい可能性をイメージする力	3 表したいことをもとに思考・判断・表現する、創造的な問題解決力
	概念的知識 (題材のテーマのコンセプト)	学芸員になって、よさや美しさを自ら発見し、工夫して他者へ伝えること価値を見出そうとする。「私たちの考えたテーマで展示した作品を学校園のみんなに鑑賞してもらおうのは楽しそうだな」	学芸員さんの講話をもとに、他者に自分が選択した作品を鑑賞してもらうことのよさや価値をとらえて取り組もうとする。「この企画展を見た人が、季節を感じたり、故郷をおもいだしてくれたりする」といいな。」	自ら鑑賞することと、他者に気持ち良く鑑賞してもらうことの2つのテーマに沿った振り返りをしようとする。			
精神運動領域	手続的知識 (表現の技術と技法、批評・鑑賞の方法)	作品を見る視点や、より効果的に見せるための方法を知り、それらを活用して鑑賞したり、展示したりしようとする。		相手に分かりやすく伝えるために造形用語を選択したり、相手の意見の根拠を明らかにし、理解するために質問したりしようとする。			鑑賞者が自分たちの意図に沿った見方や気づきができるよう、工夫するなどして構想を練り、粘り強くミニ美術展に取り組むことができる。
		鑑賞の視点を意識して友達の見聞を聞くようにする。「2人は同じ視点でみているのに、違った感想をもっていて面白いな。」	学芸員となってレイアウトや解説を工夫して鑑賞パネルを作成し企画展を開催する。「見る人が1つ1つの作品に集中できるようにレイアウトを工夫しよう。」				
情意領域	感情の次元	情意プロセス次元		鑑賞を通して、自分についた力を振り返り、情意面の向上について書いている。	自分が美しいと感じる作品を選択し、選んだ理由を考えたり、他者の意見を聞くことにより、見方や考え方を広げることができる。		
	興味・関心・態度	1 受容する/反応する	2 価値づけする/組織化する				
		作品と対話することを楽しんだり、友達と交流したりすると、新しい発見があることに気付く。「自分が気づかなかったことを発表しているな。」	作品と対話したり、友達と交流したりすると、新しい発見があることに気付く。「自分が気づかなかったことを発表しているな。」				
美的な価値観(美しさやよさに関する価値の意識や感情)	理由を明確にして、好きな作品を選ぶことができる。「私がこの絵が好きな理由は、暖色を使って表現しているからかな。」	自分のイメージを広げ深めている。「暖色を使った絵を集めてみよう。どんな印象をうけるかな。どの絵も好きかな。」					
メタ認知	メタ認知の次元	1 思い出す/理解する	2 応用する/分析する	相互評価や自己評価により、形や色から感じるイメージと作者の意図を確認したり、テーマの選定や展示パネルの制作過程における変化を楽しんだりして、見る視点を広げようとする。	ミニ美術展に向けて他者と批評しあったり、学芸員から話を聞いたり、アンケートをみたりして、パネル展示のテーマや美しさやわかりやすさについて分析し、美術作品の展示方法やその意義について認識を深めることができる。	ミニ美術展を振り返り、効果的な工夫等から自分のよさを見いだしたり、美術を通して自分の考えを発信することが、自分にとってどのような意義があるのかを考えたりすることができる。	パネルの制作過程や、完成段階において、自己評価や他者評価により、自分らしい工夫のよさを見つけ出すことができる。自分がミニ美術展へ取り組む態度やパネルを作成する技能について分析し、改善点・方策を見つけて取り組むことができる。
	自己知識	鑑賞の経験を思い出し、これまでの見方でみようとしたら、それとは違った新しい視点を見つけようとしたりする。「もっとほかの見方はないかな。」	美術館についての概念を広げたり、良さや美しさについてのイメージを広げたりしようとする。「美術館では、あんな感動体験ができるんだな」				
	自己調整		鑑賞や企画展の準備において、異なる視点やより効果的な展示の方法を模索している。「学んだ視点を活用して、展示を工夫しよう」				

3 研究実践

(1) 題材名

学芸員になって～美しさの交流～

(2) 題材について

中学校第1学年の鑑賞では、「自然の造形や美術作品などについての基礎的な理解や見方を広げ、美術文化に対する関心を高め、よさや美しさなどを味わう鑑賞の能力を育てる」ことを目標としている⁵⁾。本題材は、生徒が学芸員となって、グループごとのテーマに沿ってアートカードを選択し、レイアウトや解説を工夫して鑑賞パネルを作成し美術展を開催する。この活動を通して、他者と交流することにより、美術作品の持つよさや美しさ（主題及び造形的な要素）に気付き、対象を深く鑑賞する能力を高めていくものである。

(3) 題材の目標及び計画（全5時間）

■ 題材の目標

学芸員の仕事を通して美術と生活との関係を考え、テーマを決めてミニ美術展を企画・開催し、鑑賞者とよさや美しさを交流することで、対象を深く鑑賞する能力を高めるようにする。

■ 題材の計画

第1次 学芸員の仕事を知り、展覧会への展望を持つ。 1時間
 第2次 展覧会の準備をする。 3時間
 第3次 展覧会を実施した感想をもとに意見を交流する。 1時間

(4) 題材で育む通教科的能力と関連的に育む教科の本質に根ざした資質・能力と評価方法

通教科的能力と関連的に育む美術科の本質に根ざした資質・能力¹～³について、題材における具体的資質・能力や指導の手立て、評価方法及び、期待する主体的な学びへの効果を次のように構想した。また⁴「よさや美しさ」に関する意識についても変化を捉えるようにする。

1 造形活動を通して、新しい可能性をイメージする力（キャリアプランニング能力と関連）

<具体的な姿>

学芸員になって美術展を開催したことにより、

- ・美術館や美術展のよさに気付く。
- ・造形活動を通して、他者へ働きかけたいことを発想できる。
- ・美術を通して発信することは、自分にとってどんな意義があるのかを捉えることができる。

<指導の手立て>

視点を持って見たり、目的を持って発信したりすることで、これまで、気づけなかったよさや美しさに気づくようにする。今後、自分たちの作品等の発信の方法を、発想するようにつなげる。

<期待される主体的な学びへの効果>

美術による意見交流は楽しいと感じ、また、新たな方法で交流したいと考えるようになる。

<評価方法等>

- ① 事前・事後質問紙調査で量的な変化を見取る。

調査内容	質問内容
ア) 資質・能力(4件法)	表5参照
イ) 美術館への理解	・美術館についてどんなことを知っていますか？できる限り具体的に書いてください。

- ② 振り返りシートを表2の評価指標で評価する。

表2 「造形活動を通して、新しい可能性をイメージする力」の評価指標

パフォーマンス課題	ルーブリック評価		
	A	B	C
事後の振り返りにおいて、今後挑戦したいことを記述する活動を設定する。	目標の実現方法が明確である。	造形活動を通して、友達や社会・地域へ働きかけたいこと・交流したいことなどの目標を発想できる。	次の目標がかけない。

- 2 造形活動において、自分の価値意識をもって批評し合い、新しい価値を創り出したり他者との関係を深めたりする力（人間関係形成・社会形成能力と関連）

<具体的な姿>

- ・テーマや、カードの選定における自他の判断やその根拠を伝え合い、共通点や相違点を見出しながら、見方や考え方を広げることができる。
- ・ミニ美術展に向けて友達と話し合ったり、学芸員から話を聞いたり、アンケートを見たりして、美術展そのものやパネルのよさや美しさ、わか

りやすさについてとらえることができる。

<指導の手立て>

テーマに沿ったアートカードを選択する際、根拠を出し合わせるようにする。毎時間のねらいに沿って、振り返りをし、交流し合うようにする。

<期待される主体的な学びへの効果>

自分が感じたよさや美しさを工夫して他者へ伝えようとするようになる。

<評価方法等>

- ① 事前事後質問紙調査で量的な変化を見取る。

調査	質問内容
ア) 資質・能力 (4件法)	表6参照

- ② 振り返りシートを表3の評価指標で評価する。

表3 「自分の価値意識を持って批評しあい、新しい価値を作り出す力」の評価指標

パフォーマンス課題	ルーブリック評価		
	A	B	C
ア 美術展のテーマを発想し、テーマに沿ってカードを選択し、選んだ理由を伝え、テーマや展示カードを絞る活動を設定する。	自分の考えを造形的要素としてとらえることができる。	テーマを設定し、カードで話し合っている。	テーマを設定できていない。カードを選択し合っていない。
イ 展示パネルについて、項目に沿って評価し、その理由を伝え合う活動を設定する。	理由において、色や形など要素や相手を明確にしている。B・C評価については、具体的改善点を示している。	自分の班とペア班について5つの項目について理由を書いている。	評価とその理由がかけしていない。

- ③ 表したいことをもとに思考・判断・表現する、創造的な問題解決力 (課題対応能力と関連)

<具体的な姿>

- ・鑑賞者が自分たちの意図に沿った見方や気づきができるよう、工夫して展示パネルの構想を練り、粘り強く制作することができる。
- ・何をどのようにすれば、ねらいに沿った展示パネルになるのかを班の話し合いで明らかにして、見通しをもって取り組み、成果や課題を振り返ることができる。

<指導の手立て>

学芸員の講話を通して、展覧会を企画運営するためのポイントをつかみ、自分たちで工夫できるよう

にする。

<期待される主体的な学びへの効果>

造形的なよさや美しさについて、根拠を持って判断し、表現に活かすようになることや、より効果的にプレゼンテーションするための方法を考えようとするようになることを期待している。

<評価方法等>

- ① 事前事後質問紙調査で量的な変化を見取る。

調査	質問内容
ア) 資質・能力 (4件法)	表7参照

- ② 展示パネルの制作やギャラリートークへの取り組みの状況を表4の評価指標で評価する。

表4 「表したいことをもとに思考・判断・表現する、創造的な問題解決力」の評価指標

パフォーマンス課題	ルーブリック評価		
	A	B	C
ア テーマ設定の理由や作品のよさや美しさが伝わる展示パネルを班で工夫して制作する活動を設定する。	ねらいに沿った展示ポイントを明らかにして制作し、成果や課題を振り返ることができる。	カードの配置や解説、装飾などの制作に取り組むことができる。	制作に取り組むことができない。
イ 展示内容を興味を持って鑑賞してもらうための工夫を考えたり、ギャラリートークをする活動を設定する。	身近な話題や造形要素を引用するなどして、鑑賞者にわかりやすいギャラリートークを工夫することができる。	自分の考えを説明することができる。	説明に参加しない。

- ④ 「よさや美しさ」の意識

次の質問紙調査を事前事後に行い、資質・能力①～③の育成に伴い、「よさや美しさ」の意識にどのような変化があるか把握する。

ア) あなたにとっての「よさや美しさ」のイメージをイメージマップを使って表してください。
イ) 普段の生活や学校の授業などで、どんな時に「よさや美しさ」を感じますか。できる限り具体的に書いてください。

(5) 授業の実際

授業は、平成27年11月から12月にかけて7年で実施し、研究対象は7年2組41人とした。

■ 学芸員との出会い

題材の導入において、講義内容、生徒による質

問事項、予想される生徒のテーマ等を事前に連携し、広島県立美術館学芸課の学芸員に美術館の役割等について講義をしていただいた。

■ テーマ設定、アートカードの選択

対象が幼稚園児や小学生であることを踏まえ、テーマと展示するアートカードを個人で考えたのち、グループで交流し、検討していった。

アートカードは「広島県立美術館 1セット⁶⁾ 56枚、国立美術館他 4館 1セット⁷⁾ 65枚、Art Image Mini-Kit 4セット⁸⁾ 120枚」を使用した。

■ 展示ボードの作成

展示ボードにレイアウトを工夫してアートカードや解説を貼っていった。(図2) 学芸員の方に教えていただいた展示の工夫を活用した。途中、クラスで鑑賞会をし、良い点や改善点を伝え合うあい、改善に取り組んだ。



図2 展示ボードと制作の様子

■ 国語科との連携によるギャラリートーク

4年生に向けてのギャラリートークの内容を向上させるため、国語の授業において、プレゼンテーションの基礎を指導し、本番に臨んだ。(図3)



図3 7年生と4年生のギャラリートーク

■ 幼稚園・小学生の様子

2日間の展示期間中、年少児や小学生が鑑賞に訪れた。(図4) その様子は、写真やビデオにとり、7年生に伝えた。また、小学生のアンケートの感想をもとに、振り返りをする事ができた。



図4 幼稚園児・小学生の鑑賞の様子

■ 国語科との連携による振り返り

活動を振り返って、次の4点について記述した。

- | | |
|---|--------------------------|
| 1 | 楽しかったこと、よかったこと、新たに分かったこと |
| 2 | ついた力 |
| 3 | 再挑戦したいこと、それはどんな場面で可能か |
| 4 | 学芸員さんへのお礼 |

4 結果と考察

(1) 「新しい可能性をイメージする力」について

■ 事前事後アンケートによる量的な変化

ア) 資質・能力に係る質問紙調査においては、変化は見られなかった。(表5)

表5 新しい可能性をイメージする力に係る生徒質問紙の肯定的回答の変化(単位:%)

質問項目	事前10月	事後12月	事後一事前
今回の学習で美術を学習することには意味があると思う。	95	95	0
美術で学んだことと自分の生活をつないで考えることができる。	80	80	0

イ) 美術館への理解に係る調査

題材の前後に「美術館について知っていること」として記述したものを分類すると、「雰囲気、イベント、もの、人、感想、ルールマナー、役割、工夫や苦勞」であった。事後に加筆した生徒は24人で、内容は、「美術館の工夫や苦勞」に関する記述が23件、「感想」に関する記述が4件であった。学芸員の講義や展覧会を体験して実感したことをもとに、美術館や美術展の役割やよさについて深くとらえるようになったことが伺えた。

■ パフォーマンス課題に係る評価

パフォーマンス課題を表2のルーブリックにより評価した結果、A:28人、B:0人、C:13人で、あった。Cのうち、12人は、積極的なコミュニケーションのみに関する目標を書いていた。また、次の「新たにわかったことや今後挑戦したいこと」についての記述から、美術を通したコミュニケーションへの意欲等が伺える。

- ・今度は、同級生に自分が選んだ絵についての説明を聞いてもらいたいです。
- ・日常での会話の中で、自分の作品について工夫やこめた意味を伝えたい。
- ・絵についてもっと知ってもっと詳しく教えることができるようにしていきたいです。
- ・もっと見やすい展示ボードを作って人を引き付けたい。
- ・次は、文化祭などで、行い、親や先生など、もっと多くの人にギャラリートークを聞いてもらいたい。
- ・すばらしい自然を見つけた時や、心に残ることがあったとき、想像して作った物語を伝えてみたい。

(2) 「造形活動において、自分の価値意識をもって批評し合い、新しい価値を創り出したり他者との関係を深めたりする力」について

■ 事前事後アンケートによる量的な変化

結果は、表6のとおりで、質問項目④が7%減少した。次の感想から、作品の知識や意見を調整して折り合いをつけながら、進めたりすることに課題があるのとらえた生徒がいたと考える。

- 「次は、もっと自分のアイデアを出して、積極的にかかわりたい」「絵をじっくり細かく見て、自分で感じるようにしたい」「もう少し、みんなと協力して話し合ってやってみたい」「相手に話をさせる会話の仕方を身に付けたい」「絵について、もっと知っていて、もっと詳しく話せるようにしたい」

表6 自分の価値意識を持って批評しあい、新しい価値を作り出す力に係る生徒質問紙の肯定的回答(単位:%)

質問項目	事前 10月	事後 12月	事後- 事前
①相手の気持ちを考えながら、声をかけたり関わったりすることができる。	98	98	0
②友だちの様子などをみて、どうしたらいいか考えて行動することができる。	95	93	-2
③声の大きさや話し方に気を付け、聞き手にわかりやすく話すことができる。	90	95	5
④作品を鑑賞するとき、自分の考えをもち、友だちの考えを尊重しながら話し合うことができる。	90	83	-7

■ パフォーマンス課題に係る評価

パフォーマンス課題(表3)アについては、テーマを決めてアートカードを選択し、次のようなテーマ案と理由をもとに班で意見が言えたため、全員がB規準を達成できたとらえた。

- 「芸術的背景:背景が主役を目立たせることに気付いてほしいから」「リアルな世界:実際に起こったことをもとに描いている絵が多いから」「みんなで世界旅行:世界の絶景に美しさを感じる」「いろいろもよう:どこにどんな模様があるか見つける楽しさがある」「明日、すべてが白になる:白に染まって、シンプルに整理された美しい世界を楽しんでほしいから」「平和:戦争の記憶を風化させないため、人を安心させる言葉だから」

また、次のような事後の振り返りも、見られた。

- ・テーマに沿った絵を選ぶ力が付いたと思う。僕たちの班のテーマは季節～春夏秋冬～だったんだけど、春を選ぶにしても、どの部分が春の印象に見えたかなど、いろいろ考えて選ぶことができていたから。
- ・私たちは、絵や写真を選んだ後にテーマを決めたので、ネーミングをする力が付きました。バラバラな絵や写真なので、その中から1つのテーマに絞るということが難しかったです。サブテーマを決めるときには、1番何を見てほしいかを考えてつけました。

なお、A評価については、観察により、次のような一部の特徴的な発言は把握できたものの、全体についての評価はできなかった。今後は、ワークシートへのメモ等、生徒による記録の工夫が必要であると考えます。

- ・多くの色を使ってとてもカラフルで心を楽しませてくれる。その一方で統一感もあり、落ち着いた印象や広大な自然も感じられるから。
- ・小さい子がお母さんに甘えている様子から、親子の愛が感じられる。色合いからもスカートに白い線が入っていて優しい感じがする。棚の上に花があることで、柔らかな印象を与えてくれる。後ろの木の影みたいところがこっちを羨ましがって覗いているようにも感じられる。

パフォーマンス課題(表3)イについては、自分たちの班とペア班の完成間近の展示パネルについて、5つの項目(テーマやサブテーマは印象的だ。テーマの解説はわかりやすい。テーマに沿った作品の選定ができています。作品ごとの解説はわかりやすい。鑑賞者に対してやさしい工夫がある。)を3段階で評価し、その理由を記入して伝えあう活動を行った。そして、生徒の評価シートを教師が表3のイのルーブリックにより評価した結果、自分の班に対しては、A:57.1%、B:31.4%、C:11.4%であり、ペア

班に対する評価は、A：77.1%、B：11.4%、C：11.4%であった。自分の班よりも、ペア班に対しての評価カードの方が、教師のA評価が20%多かった。これは、相手に対して、客観的で具体的な視点をもって伝え合い、改善し合おうという姿勢からではないかと考える。

(3) 「表したいことをもとに思考・判断・表現する、創造的な問題解決力」について

■ 事前事後アンケートによる量的な変化

結果は表7の通りで、質問項目③が5%増加している。先に示した生徒の記述等からも、取り組みの成果や課題を踏まえて再チャレンジしたいと考えたからだにとらえている。

表7 表したいことをもとに思考・判断・表現する創造的な問題解決力に係る生徒アンケートの肯定的回答（単位：%）

質問項目	事前10月	事後12月	事後-事前
①表現や鑑賞に取り組む時、計画を立てて行動することができる。	88	85	-2
②今、美術で、目標を持って頑張っていることがある。	88	85	-2
③美術で新たに挑戦してみたいことがある。	88	93	5
④最後まであきらめずに表現や鑑賞に取り組むことができる。	95	95	0

■ パフォーマンス課題に係る評価

パフォーマンス課題（表4）アについては、制作の様子を観察した結果、班の中で、役割を分担して取り組んだため、Cの生徒は見られなかった。活動の見とりが十分でなく、Aと判断される生徒の人数の特定はできていないが、Aと判断される生徒の特徴的な姿は、次のとおりである。

- ・学芸員の方に教えていただいた、カードの配置の間隔や、目立たせる工夫を応用して制作した。
- ・見る人の視点で、動線を考え、矢印などで順番を示した。
- ・低学年の児童が興味を持つように、テーマに関連したイラストを添付した。
- ・テーマに沿って、制作しながら、話し合ってイメージを広げ、展示ボード全体を粘り強く装飾した。
- ・解説文の中に、造形的な要素や主題に気付かせるような問いかけ（クイズ等）を用いた。

一方、展示ボードの空欄の改善を図ろうとしない、カードのレイアウトに統一感がない、カード

がはがれかけているのを修正しない等の班もあり、もう一段階の意識づけが必要であったかととらえている。

パフォーマンス課題（表4）イについては、Cと判断される生徒はいなかった。活動の見とりが十分でなく、Aと判断される生徒の人数の特定はできていないが、特徴的な姿は、次のとおりである。

- ・ジェスチャーを交えたり、クイズ形式で問いかけたりし、興味を持って聞いてもらおうとしていた。
- ・班の役割を明確にし、リレー形式で最後まで計画的に説明を進めることができていた。
- ・注目させたい作品を指さし、造形的な要素に着目させて、理解を図ろうとしていた。

国語の時間に話し方やアピールの仕方を学習し、全員で、役割を分担して、4年生に対するギャラリートークに臨むことができた。しかし、異年齢の鑑賞者に話しかけることに積極的になれず、いつの間にかアクティブに楽しく語る生徒に任せてしまい、パネルの脇や後ろに引っ込んでしまう生徒もいた。また、楽しくしようという気持ちから、作品について、適当な説明をしてしまう生徒もいた。また、事後の振り返りの記述内容に、次のようなものが見られ、テーマや展示内容の協議、ギャラリートークの打ち合わせの時間がもう少し必要であったのではないかとと思われる面もある。

- ・私たちの展示は少しさみしい感じになっていたから、配置などをもう少しみんなと話し合ってやってみたい。
- ・今回は、友達が中心で説明してくれたので、今度はぼくが紹介してみたいです。お気に入りのものを絵にして紹介してみたいです。
- ・人を引き付けるデザインやアピールがしてみたい。
- ・クラス全員でミニじゃない美術展をしてみたい。そうすることで、選んだ意図などからその人のことを知ることができるから。今後の生活にもつなげられるのではないかな。
- ・何事もまずは、やってみること、人のことを考えることだと感じた。やってみたら結構楽しかったし、みんなが読みやすくなるように工夫したりしてできたし、すごく4年生が喜んでくれてうれしかった。
- ・ギャラリートークをして、お互いのコミュニケーションが取れるから、美術はコミュニケーションとも関係があるのかなと思った。
- ・今まで、絵をみる機会があまりなかったので、たくさんさんの絵を見て、絵を真剣に選べるととても楽しかった。
- ・僕は絵の美しさを見極める力が付いた。絵が美しいかどうかはその人の価値観によって違うが、ぼくの価値観なりに絵を選ぶことができたから。また、絵を選んでみたい。

(4) 「よさや美しさ」についての意識の変化

■ 質問ア) に関する記述

質問ア) 「あなたにとっての『よさや美しさ』のイメージをイメージマップを使って表してください。」に関するイメージマップの記述内容を分類すると表8のとおりであった。事後に、感情や感覚(いやし、笑顔、こめられた思い、幻想的など)、自然(春夏秋冬など)、美術的な要素(色合い、バランス、背景など)の追加が複数見られたのが特徴である。

表8 「よさや美しさ」のイメージマップの記述内容別個数(単位:個)

	自然	美術	音楽	スポーツ	感情・感覚	日本文化	趣味・好物
合計	28	25	2	3	31	5	11
内、事後に追加	7	7	0	0	9	0	0

■ 質問イ) に関する記述

質問イ) 「普段の生活や学校生活などでどんな時によさや美しさを感じますか」に関する記述内容を分類すると、事前事後の総計は多い順に、自然:60、趣味・行為:21、美術:18、人工物:11、スポーツ:10、人間関係:6、音楽:3、生命:3、文芸:2で、事後の記述の追加は、自然が6増加した以外は0~2の増加であった。

具体的な回答の内容からは、事前では、風景や四季の変化、一日の自然の変化などを挙げている生徒が複数見られるが、事後に、自分がしたことや人が笑顔になるのを見たとき等が新たに挙がっている。漠然とした問いではあったが、生徒は一人ひとりちがった、様々なよさや美しさをイメージしながら、題材に臨んでいることがわかる。

5 成果と課題

今回、中学校美術「B鑑賞」において、美術館と連携したことにより、来館者への気配り、美術作品の扱い等日頃接することのない美術館の裏側について専門的な知識を学芸員の方から教えていただき、生徒は大変興味を持つことができていた。また、国語科と連携して、プレゼンテーションの

基礎を復習したため、生徒は、具体的な視点をもってギャラリートークに臨むことができた。また、事後において、幼稚園児や小学生の様子や感想を捉え、自分たちの活動を客観的に振り返ることができていた。また、一部課題が残ったが、生徒の記述や教師の見とりからは、目標とした資質・能力が育った様子がおおむね見とれた。今後は、パフォーマンス課題とその見とりの方法を精選してより具体化し、多忙な授業の中でも、ポイントを絞って生徒の状況を見とれるようにしていきたい。

終わりに、本研究に際し、ご指導、ご協力を頂いた関係者の皆様に心よりお礼申し上げます。

<注および引用文献>

- 1) 中央教育審議会教育課程企画特別部会「論点整理」(平成27年8月26日付)
(http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/053/sonota/1361117.htm)
- 2) 広島大学附属三原幼稚園・小学校・中学校「平成27年度 第18回幼小中一貫教育研究会要項」p.64, 2015
- 3) 中村和世・大和浩子・中島敦夫・吉川和生, 「図画工作・美術科における『ブルームのタキシソノミ』改訂版』の活用に関する考察」, 『学校教育実践学研究』, 第17巻, pp.71-80, 2010
- 4) 松崎伸一・松本裕子・内田雅三・中村和世, 「図画工作・美術科の教科特性を踏まえた21世紀型能力の学習開発」, 『広島大学学部・附属学校共同研究紀要』, 第44号, 2015(2016.3.発刊予定)の表3をもとに本研究題材用として作成した
- 5) 文部科学省:「中学校学習指導要領解説 美術編」p.93, 2008, 文部科学省.
- 6) 広島美術館 鑑賞教材・アートカード
(<http://www.hpam.jp/education/>)
- 7) 国立美術館アートカードセット:東京国立近代美術館他
- 8) Art Image Mini-Kit: David W. Baker による”Small reproductions Big idea”, ©1990 Art Image Publications, Ink.